

校内居場所カフェの取り組み ～りりいふカフェ～

中核地域生活支援センターくらっち
センター長 和田千鶴子

中核地域生活支援センターとは？

平成16年10月に開始された相談支援事業で、**千葉県独自の制度**です。

県内13の健康福祉センター（保健所）圏域に1か所ずつ設置され、公募・選考された民間の法人が県から委託を受け、運営にあたっています。

<目的>

子ども、障害者、高齢者等誰もが、ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができる地域社会を実現するため、各地域に「中核地域生活支援センター」を設置し、多様な相談に対して**24時間365日体制**で総合的な対応を行う地域福祉のセーフティネットとして、広域的、高度な専門性をもった寄り添い支援を行い、地域住民の福祉向上を図る。

※中核地域生活支援センター事業 実施要綱より抜粋

具体的な事業内容

- ◆包括的相談支援事業
子どもからお年寄りまで、分野を問わない寄り添い型相談支援
→制度の狭間や複数の課題を抱えるケースに、細く長く関わる事が可能
- ◆市町村等バックアップ事業
行政や各相談支援機関への助言や支援
→行政の各種会議、ケース検討会議等への参加
- ◆地域総合コーディネート事業
関係機関のネットワークづくり、新たなサービス・社会資源の創出促進
→16~18歳を中心とする若者支援の関係機関・支援者ネットワーク「678プロジェクト」
- ◆権利擁護事業
潜在的な権利侵害の把握と解消
→本人やご家族も認識していない権利侵害を発見し、関係機関と一緒に支援
- ◆校内居場所づくり事業
福祉団体等と連携して定時制高等学校内に気軽に相談できる居場所を作る
→市川工業高校定時制生徒を対象とする「りりいふカフェ」を開催

いちかわ・うらやす若者サポートプロジェクト678

- 社会的な支援体制が極めて限られている10代後半以降の子どもたち、若者たちに関わる、市川・浦安地域の支援機関のネットワーク。
- 中核地域生活支援センター「地域総合コーディネート」の一貫として2017年度にプロジェクトを立ち上げ、月1回定例会を実施している。(2023年度からくらっちが事務局を引き継ぐ)

【参加団体】

中核地域生活支援センターくらっち	市川市よりそい支援事業がじゅまる+
市川市生活サポートセンターそら	NPO法人ダイバーシティ工房
浦安市総合相談窓口	若者アフターケア相談センターAWAI
いちかわ・うらやす若者サポートステーション	児童家庭支援センター こうのだい

★オブザーバー：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等

校内居場所づくり「りりいふカフェ」

- 市川工業高校の定時制の生徒を対象に月1回、校内にある食堂の場所を借りて開催。
- カフェに訪れる生徒たちの過ごし方はボードゲームや卓球をしたり、カフェで用意した肉まんやカップ麺を食べたりなど自由に過ごしている。
- 季節のイベントを毎回実施。外国ルーツの生徒もいるため、生徒の母国の文化を取り入れることも。また、生徒のバンド演奏も定期的に披露していただいている。



りりいふカフェの始まり

- 定時制高校の給食が廃止されたことをきっかけに若者支援機関や地域の食糧支援を行っている団体等が連携をして、学校の通学路にあるコンビニでおむすびを配布する活動を開始。
(現在は、おむすびプロジェクトとして継続)
- その後、学校との連携が始まり、校内での居場所づくりを検討し、運営委員会を立ち上げ、試行的に夏祭りを開催。
- 2022年度からは、中核地域生活支援センター事業の一環として千葉県の委託を受け、校内居場所カフェ＝「りりいふカフェ」を定期開催。(8月を除く年11回)
- 今年度も関係団体の協力を得て、りりいふカフェとおむすびプロジェクトを継続中。

りりいふカフェ運営委員会

- ・中核地域生活支援センターくらっち
- ・市川市よりそい支援事業がじゅまる+
- ・市川市生活サポートセンターそら
- ・NPO法人ダイバーシティ工房
- ・NPO法人ハイティーンズサポートちば

主に市川市・浦安市の若者支援機関・団体のネットワーク
＝「いちかわ・うらやす若者サポートプロジェクト678」のメンバーで運営委員会を構成

りりいふカフェで心がけていること

- 「支援したがり」「聞きたがり」「やりたがり」にならないように。
→ 生徒から相談してきたら話を聞く
- 食糧支援ではなく、フードロス対策への協力を依頼。
→ 自然に社会貢献活動に参画できる場
- 学校内にあるが学校ではない、誰でも気軽に参加できて楽しい場所にする。
→ サードプレイスとしての役割

りりいふカフェに参加するボランティアスタッフ

・近隣の大学の学生

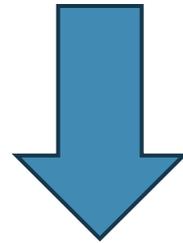
近隣大学に問い合わせ、ボランティアの募集をかけてる。年齢が近いボランティアスタッフは生徒にとっても良い刺激になっている。

・行政の方や地域の方

参加している生徒と関わってもらったり、りりいふカフェの雰囲気を見てもらったりして、りりいふカフェを知ってもらい、より地域で連携図れるように。

最後に

- 生徒（若者）が自然な形で地域の大人（支援者）と顔見知りになり、困った時にSOSが出せる関係性をめざす。
- 生徒（若者）を孤立・孤独にさせない。



カフェ内の関わりの中で信頼貯金を増やしていく。
カフェを通じて学校や地域とのつながりを作る。